

委 員 殿

2026年度 技術委員会・標準化部会
第3回環境負荷調査専門委員会 議事録

(一社) 日本工作機械工業会

1. 日 時 2026年8月7日(金) 9:30~11:30

2026年8月19日(水) 9:30~11:30

2. 場 所 オンライン会議(MS Teams)による

3. 出 席(順不同・敬称略) ※○×は、左が8月7日、右が8月19日の出欠を表す

委員長 ○○青山 英樹(慶應義塾大学)

委 員 ×○田辺 郁男(三条市立大学)

××増井 慶次郎(産業技術総合研究所) ○○佐竹 明喜(オークマ)

○×納谷 敏明(ジェイテクト) ○○中谷 尊一(シチズンマシナリー)

○×五味 英一郎(DMG森精機) ×○中西 賢一(中村留精密)

○×安藤 博篤(ファナック) ××竹市 健吾(ブラザー工業)

○×榎田 幸一郎(三菱電機) ○○山本 篤志(ヤマザキマザック)

××渡辺 洋太(経済産業省)

オブザーバ ○○堤 正臣(東京農工大学) ○○森本 茂夫(日本鍛圧機械工業会)

事務局 ×○笹川 哲平 ○○高野 晋一

以上12名

4. 配付資料

- ・No.26-3-1 2026年度 第1回環境負荷調査専門委員会 議事録
- ・No.26-3-2 ISO/CD 25627 投票画面
- ・No.26-3-3 ISO/CD 25627 ドラフト
- ・No.26-3-4 ISO/CD 25627 委員コメントまとめ
- ・No.26-3-5 N253_Notice of meeting / Draft agenda_2026-09-07

<参考資料>

- ・ISO/CD 25627 ドラフト(堤先生翻訳版)
- ・LCAによるプラスチック資源循環の評価方法の基本と課題

5. 議 題

(1) 委員交代挨拶、配布資料及び前回議事録の確認等

事務局より、ヤマザキマザックの矢井委員から山本委員に交代となった旨の報告があり、また、ファナックの小槇委員から交代となった山本委員より自己紹介が行われた。引き続き、配布資料及び前回議事録の確認を行った。

※その他、7月1日より経済産業省の委員が宇佐美委員から渡辺委員に変更となった。

(2) ISO/CD 25627（工作機械のカーボンフットプリント評価のための製品分類ルール）CD 投票コメント審議

2026 年 8 月 21 日が投票期限となっている ISO 25627 の CD コンサルテーションに際し、委員から提出のあったコメントについて審議を行った（No.26-3-4 参照）。なお、件数が多いことから、会合での審議は技術的コメント（te）と一般的なコメント（ge）を中心に行った。審議は、1 日目のみで終了せず、8 月 19 日に再度会議を設定し、すべてのコメント審議を完了した。

主なコメント内容と審議結果の概要については以下の通り。

※【 】内は資料 No.26-3-4 のコメント番号

- ・ Part 1 と Part 2 に分けた規格化することになり、Part 1 では Scope が「ゆりかごから墓場まで」ではなく「ゆりかごからゲートまで (cradle-to-gate)」に修正され、その範囲を外れた記述の修正、削除が行われた。
- ・ 列記されている項目について、文章の意味から、記載項目を整理した。【中谷 2-040、中谷 5-052】
- ・ (4.6.4) この段階で、「remaining mass」という用語は主要な部品を除いた重量のニュアンスを感じられるが主たる重要部分であるため、「principal mass」としてはどうかと提案する。【青山 3-044】
- ・ (5.2.4.2.1) 「machining hours (加工時間)」を「production hours (生産時間)」に変更する。production hours とすることにより machining 以外（組み立てのためのストック時間）で発生する CO2 を部品に対して上乘せして計算できる。【中谷 7-074】
- ・ (A4.8) 「Coolant lubricants」を「Cutting fluid」に変更する。「Cutting fluid」の方が一般的に理解しやすいと考えられるため。【中谷 8-081、中谷 9-082】
- ・ (A4.8) 「via internal tool cooling」がどのようなものか分からないため、「via Through-Tool Coolant system」を指しているのか、会合当日に確認するため、質問形式でコメントすることとした。【中谷 10-083】
- ・ (4.4.2) 「Within the framework of the methodology presented, four different approaches to find GHG emission factors are considered:」は informative になると思われ、"are considered"を"can considered"に修正すべきでは、とのコメントに対し、本項目は規定事項になるので、"shall be considered"に修正するよう、コメントすることとした。【Ando-1-123】
- ・ (4.5) 3 段落目にある shall の記載は、1, 2 段落に can の記載があることから、can か should にすべきでは、とのコメントに対し、文章の意味自体に誤りは無いものの、「declared unit」の意味合いが 3 段落目だけ異なる意味合いを持つことから、3 段落目の最後の文章「this device shall be part of the declared unit」を「this device shall be part of machine tool」に修正するコメントを付加することとした。【Ando-2-124】

その他、ed 関連の主だったコメントは以下の通り。

- ・ 3 章の「terms and definitions」の表記方法の統一と、4 章以降で使われていない用語の削除
一部上記に伴う本文へのコメント追加
- ・ 写真、図の修正（白黒にする、特定企業名の表記を避ける、等）
- ・ 数式の下付き文字、斜体表示等の修正、単位を [] で括る等の表記の統一
- ・ 数字表記の修正（1,000 以上の数字や、小数点以下の表記は、3 桁ごとの区切りにスペースを入れる
ex) 7 565kg、0,000 1
- ・ スペルミスの修正

(3) 次回 ISO/TC39/WG12 国際会議について

- 開催日時：2026 年 9 月 7 日（月）～9 日（水）（3 日間）
 - 開催場所：ドイツ・ゲッピンゲン（ANDRITZ Schuler GmbH）
 - 主な議題：ISO 25627 及び ISO 14955-4 の CD コメント審議
- 出席者について、青山委員長及び中谷委員を派遣することを改めて確認した。
（日本鍛圧機械工業会からは、森本氏及び高橋氏が、現地参加予定。）

(4) 次回の日程について

次回委員会は、国際会議終了後、委員長と事務局で調整の上、開催を検討することとした。詳細が確定次第、事務局から案内することとした。

以上